

平成 28 年度 第 1 回近江八幡市子ども・子育て会議 要録

日	時	平成 28 年 9 月 2 日（金）午後 2 時 30 分～午後 4 時 45 分
会	場	桐原コミュニティセンター 2 階 大会議室
出 席 委 員		◎中川千恵美委員、○小西ひとみ委員 竹下秀子委員、田中裕喜委員、中江栄理香委員、山下亜由美委員、 甲斐真由美委員、川橋袖子委員、榊原かず子委員、伊藤左登美委員、 真鍋崇委員、河村加恵委員、杉本僚子委員、福永利明委員、 川部長宣委員、久家昌代委員、小林英代委員、安川千穂委員 (欠席) 中村珠希委員、坪田吉史委員、中西康子委員 ◎：会長等、○：副会長等
傍 聴 者		なし
議 題		(1) 近江八幡市の児童福祉の状況 (2) 子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について (3) 子育て短期支援事業（ショートステイ事業）の実施について (4) 待機児童の状況と今後の取り組みについて (5) 地域少子化対策重点推進事業について

決 定 事 項

第 2 期目の初回にあたり、会長に中川委員、副会長に小西委員を選出した。
子ども・子育て支援事業計画初年度・平成 27 年度の進捗状況について確認した。
毎年、利用状況・利用断念事由を確認し、制度設計の課題が出れば見直しすること
を前提に、ショートステイ事業を今年度内に開始することを決定した。

議 事 詳 細

1. 開会
2. 委嘱状交付（各委員に委嘱状を交付）
3. 部長挨拶

（会議の開催にあたり、福祉子ども部長より挨拶）

部長	委員をお願いさせていただきましたところ、皆さま方、快くお引き受け いただき、本当にありがとうございます。 平成 27 年 4 月に子ども・子育ての新制度がスタートしましたが、1 年 余りを過ぎた今の時点でも、現実の子どもの世界、子育ての世界は、やは り非常に変わりつつあると実感を持って、業務に当たっております。
----	--

今日は、子ども・子育て支援事業計画の進捗管理等をご報告させていただきましたが、皆さま方からも、どうぞ忌憚のないご意見を頂戴させていただいて、より良いものを進めていきたいと思っております。今回の委員任期は3年間ということで、来年度平成29年度の中間見直しを含め、計画の後半に向けてご支援を賜りたいと思っております。

4. 委員紹介（各委員から自己紹介）

5. 会長及び副会長の選出

（会長に中川委員、副会長に小西委員を選出し、それぞれから挨拶）

- | | |
|-----|--|
| 会長 | <p>第2期の子ども・子育て会議を非常に改めて引き締まった思いで望み、皆さんと共に進めていきたいと思う。</p> <p>より良い親子の育ち、その親子が孤立せずにこの近江八幡の中で育っていくためには、改めて、どういう繋がり、連携のあり方があったら良いのか、委員の皆さんが日々関わっていらっしゃる方たちを思い出しながら、限られた時間の中で、ご一緒に考えていけたらと思っている。</p> <p>この新制度が始まって2年目、見直しに向けて、皆さんの活動から見える子どもさん、親御さんの育ちに関して、何が大事かということ、積極的に意見交換して、市の中で反映されていくようにしていきたい。</p> |
| 副会長 | <p>皆さんのご意見を十分に吸い上げられるような形で、この会議が順調に進んでいくよう手助けができたらと思う。</p> |
| 会長 | <p>本日の議事の中で会議を公開することに格別の支障となる事項はないように思うので、公開としたいと考えるが、委員の皆さんよろしいか。</p> <p>（異議なし）</p> <p>それでは、近江八幡市会議の公開に関する取扱要綱第4条の規程に基づき、本会議は公開とすることを決定する。</p> |

6. 議事

（1）近江八幡市の児童福祉の状況

（事務局より、本市の児童福祉の状況について説明）

（説明概要）

就学前児童数や待機児童の推移など、本市の児童福祉の状況と経年変化について、主要な箇所を報告した。

委員	八幡子どもセンターと八幡西子どもセンターは乳幼児の参加が多いが、八幡東子どもセンターだけは、小学生の参加が多い。これはどう解析されているのか。親子で家庭の中で閉じこもってしまうのは良くないので、乳幼児の方たちをどうカバーするのか考えていかないといけない。
事務局	八幡東子どもセンターは市の中では端の方に位置しますので乳幼児の方の参加が少ない、立地条件が一番大きな理由であると考えております。
会長	乳児の親子の居場所をどんなところがカバーしているのかを確認していくこと、どういう展開が今後必要なのかということを改めて考えていくことが大事である。

(2) 子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について

(事務局より、平成27年度の進捗状況について説明)

(説明概要)

計画初年度の結果として、164種類の施策の進捗状況と重点施策の評価、及び法定事業の進捗状況について報告した。

委員	2号・3号児の確保方策はマイナス、つまり供給が足りないにも関わらず、待機児童の解消の評価がAとなっていることに疑問を感じる。待機児童の解消について、私も保護者の皆さんからたくさんご意見を頂く。
事務局	新たな整備をしたということでA評価であり、十分かという点、そうではない部分があります。後の議題4にて詳しく説明します。
委員	実費徴収に係る補足給付を行う事業が「今後実施の予定はない」となっているが、対象者がいないのか、必要がないのか、何故なのか。
事務局	優先順位を付けて、待機児童の解消のため限りある予算を使っています。今のところ予定をしていないのが現状ですので、記載を見直します。
委員	虐待相談窓口の充実や児童虐待防止対策の成果であると言えるが、重篤な虐待件数の減少などの要因を報告データから読み取れることが大切である。数値では実情を描き出しにくいので、ひとり親や貧困との兼ね合いが顕著なのかなど実情を多角的に分析し、施策に生かすことが必要である。

事務局	虐待ケースの見直しを行ったことにより虐待件数は減っていますが、継続し長期化しているケースが増えています。虐待以外の育てにくい、関わりがしにくい子どもたちに対する養育相談も増えています。成果としては、児童相談所のOBの方を2名雇用し、市の抱える色んなケースをスーパーバイズしていただき、初期の虐待相談に適切に対応できています。今後、実情把握と合わせて、虐待防止、子育て不安の解消のための地域のネットワークづくりなど、そういう支援の形で事業を進めていきます。
委員	子ども発達支援センターの保育所等訪問支援事業の状況が減っている。軽度の発達障がいの方がかなり増えている中で、何故なのか。また、小学校・中学校という学齢期の子どもさんに対しての支援はどう考えているのか。
事務局	訪問支援員の確保ができず、実数が減っています。今年度は新しく雇用し、力を入れて実施していますが、相当な専門性が求められ、安定的な確保が難しいのが現実です。また、小学校や学童も必要があれば指導に行くのですが、そこまでの専門性がなかなか確保できていないのが現実です。
委員	放課後児童クラブの確保方策や見通しを教えて欲しい。
事務局	この計画時点よりも学童の利用率が急激に伸びてきている。少子化の中で総数が減る部分と利用率の伸びというところで、今、検討を進めています。具体的な整備計画をお答えできない状況ですが、施設整備があるのか、他の施設を活用するのかなど、至急に多角的な検討をしていく考えです。
委員	専門性がないから事業ができないでは説明がつかない。人材確保にはやはり、その専門性に相応しい処遇が必要となる。状況の好転を期待する。
会長	人材確保に向けて、さらに継続して、処遇も含めてご検討いただきたいと、この会議での発達支援に関する要望としてお伝えしたい。

(3) 子育て短期支援事業（ショートステイ事業）の実施について

（事務局より、事業実施に向け検討内容について説明）

（説明概要）

前回会議にて丁寧な確認を求められた保護者負担額に関する部分として、利用が想定される世帯の収入状況、県内他市の利用世帯の状況について説明した。

会長 昨年度末からの継続議論であり、より丁寧にいろいろな対象世帯の現状を確認いただいた。もし利用を断念するような理由等が制度設計に絡むようなことであれば、この会議の場で見直しも検討するとのこと説明で異議がないということで、今年度中に事業を実施していただきたい。

(4) 待機児童の状況と今後の取り組みについて

(事務局より、本市の待機児童の状況などについて説明)

(説明概要)

待機児童の経年変化、学区別・年齢別の傾向、桐原・桐原東・岡山学区での施設整備、認定こども園化等について報告した。

委員 1項目設けられるほどに大きな問題であり、待機がゼロになるように頑張っていたきたい。それと同時に、質の確保も確実にしていただきたい。

(5) 地域少子化対策重点推進事業について

(事務局より、今年度の取り組みについて報告)

(説明概要)

少子化対策の事業として3年目の取り組み、ライフデザイン構築を目指したワークショップ研修について報告した。その他、追加資料、子育ての不安解消や地域の繋がり醸成を目的に実施した「だんないで子育てフェスタ」の報告、子育てサポーター養成講座の開催等も案内した。

7. 閉会

(会議の閉会にあたり副会長より挨拶)

副会長 保育園の現場では、それぞれの保育士さんが一生懸命保育に当たっていらっしゃる。待機児童を減らすことはとっても大事なことだが、園の子どもたちを増やすことでマンパワーが足りないと、質が落ちて抜け落ちることも出てくるかもしれない。ぜひ、どの子どもたちも、近江八幡で育って良かったな、大人になっても近江八幡で生活したいなというような、子育ての場、近江八幡になると良いと思う。3年間、一緒に考えていきたい。

閉会